

今月の言葉：

思い込みにとらわれないためには



オオデマリ
天国

私たちは思い込みや先入観にとらわれると視野が狭くなり、人や物事を正しく見ることができなくなるようです。

外見だけで人を判断するのが良くないことはもちろんですが、ある人の行動の一場面だけを見てその人全体を判断することも間違いを起しやすく、相手の本当の姿を知ることにはなりません。

人を理解するには、それなりの時間がかかるものです。

思い込みで失敗しないためには、相手の立場や考え方を尊重しつつ、自分から心を開いてじっくりと向き合うことが大切なのではないでしょうか。

事件ファイル No. 218

口座売買は犯罪



口座を売ると犯罪として検挙されなくても、持っているすべての口座が凍結され、他の金融機関での口座開設ができなくなります。口座売買は売った時点で処罰の対象となります。

銀行は口座売買が確認できた時点で、口座の利用を停止し、当局への通報を行います。

口座が販売に使われた場合、警察等からの要請を受けて持っているすべての口座が凍結されます。凍結された口座名義情報はブラックリスト入りとなり、どの金融機関でも口座開設が出来ず、仕事や生活に多大な影響を及ぼします。

以下は、実際に起きた例と罰則です。



売買の報酬を受け取る口座も凍結され、報酬が受け取れず、そのうえ生活に使っている口座まで利用できなくなってしまった。



子供名義の口座を売ったら、子供が新たに口座を作れず、就職できなくなってしまった。



悪用しない約束で使っていない口座を貸し出したら、詐欺に利用されてしまった。口座は凍結され、刑事裁判を受けることになった。

口座を売った時点で

詐欺罪：10年以下の懲役

口座を買った時点で

盗品等譲受罪：10年以下の懲役及び50万円以下の罰金

売った口座が不正利用された時点で

犯罪収益移転防止法違反：1年以下の懲役、100万円以下の罰金

今月の良い話

作家・佐藤愛子さんの生き方



長いこと注文のない小説を書いていたり、その後は再婚相手の夫がつくった借金を肩代わりしていた頃もありましたけど、私はそんなに大したことはないと思っていました。

私はいまでもそうですけど、貧乏な時は貧乏なように、お金がある時にはお金があるように暮らしていけばいいと思っているので、別に貧乏だから惨めになったとか、お金持ちだから幸せだとかいうことはないんですよ。

なぜそうかと言うと、『血脈』という小説で書いたように、私は佐藤家という不良の巣窟のような中で育っているわけで、その環境において醸成されていった人間の見方というのがあると思いますね。

それに当時はほとんどの人が貧乏でしたから、例えば男の人は黒い足袋でしたけど、よく親指のところが破れて指がにゅっと出ていると、その部分を墨で黒く塗って「黒足袋だ」って（笑）。

それで別に惨めなことなれば、おかしなことでもない。

他にも貧乏のどん底のような人たちがばかり見てきていて、しかも彼らは皆楽しくやっていますから、何があっても大したことないと思っちゃう。

だから本を出しても、売れなくてもいいんですよ。

ただ、つくってくれた人が売れば嬉しいだろうなと思うから、その人のために売ればいいと思う。

私たちは書くことに意味があるんですね。売れるってことは二の次三の次の問題です。

本当は90歳で『晩鐘』を書き終えた後は、もう執筆生活をやめようと思っていましたら、一時期鬱病みたいになりましたね。

それまでは朝目が覚めると、その日に書くものの構成を考えたりしながら、「いざやるぞ！」ってパッと起きて一日が始まっていました。

ところがそれがなくなってしまって、目が覚めても別にすることがないからもう少し寝ていようとかズルズルしているうちに、だんだん気持ちが鬱屈して、元気がなくなってしまいました。

最初は原因がよく分からないから、年のせいだろうと思っていたんですよ。

そうしたらある日、ある週刊誌の編集者が来てエッセイを連載してくれないかという話になってね。

断るつもりでいたんですけど、とても熱心だったので引き受けたところ、翌朝起きるともう頭の中では何を書こうかと考えていて、いつの間にか元気になった（笑）。

私はね、書くことだけが生きることだったわけですから、だからそれをやめた途端、鬱病になっちゃったんですよ。

よく定年退職した男性が鬱病になりますでしょう。あの気持ちはよく分かります。

芯がなくなるんですよ。

だから死ぬまで何か仕事をしていないとダメだということを実感したので、いまは力尽きるまで仕事をしたいと思っています。

今月の良い話

無縁社会を脱し、有縁社会の回帰へ

いまの日本で回っていないものが2つあります。

1つは経済。もう1つは温かな心です。
夜中の2時頃、仙台に住むあるおばあさんから電話がかかってきました。

「失敗しました。丈夫な綱を送ってくれませんか」とおっしゃるのです。

喜寿を迎えたそのおばあさんは、夫に先立たれて一人でひっそり暮らしていました。

独立した子供たちはもう5年も顔を見せない。寂しくて、夫の元に旅立とうと思ひ、首をくくろうとして失敗したのです。

たまたま仙台で講演の予定があったので、すぐ飛んでゆきました。

おばあさんは、子供や孫から「喜寿おめでとう」と一言でいいから声を掛けてもらいたい、と泣くのです。

短歌を習っているというおばあさんは、こんな句を詠んでいました。

「来るはずの ない息子とは 知りつつも
車の音に ベランダに駈け」

私はおばあさんに、息子ができたと思っていつでも電話をくださいと言いました。

いまも週に2、3度はお話をしています。
日本がいずれ高齢化社会を迎え、孤立化するお年寄りが増えることは、早くから分かっていたはずですが。
なぜもっと前から真剣に対策を考えなかったのか、悔やまれます。

ある84歳のおばあちゃんが、お孫さんを連れてスイミングプールに行きました。

インストラクターが、どうしていまになって泳ぎを習いに来たのかと尋ねると、子供の頃から水が恐くて、このままでは三途の川を渡れないから、とおばあさんは冗談交じりに答えました。

そばで聞いていたお孫さんがすかさず言いました。

「先生、おばあちゃんが三途の川を渡り切ったら、もう一度私の所に帰ってこられるだけの力をつけてあげて」

こうした温かい言葉をかけ合える世の中になれば、無縁社会を脱して、有縁社会に回帰していけるに違いありません。

だからこそ、自死の問題を人ごとと思わず、まず身の回りの人に温かな声掛けをすることから始めてほしいのです。



プロ太の小話集 No. 218

願望敵う

- 男 A 『死ぬまでに一度でいいから、あの女子高生達に囲まれてキャーキャー言われたいな。』
 男 B 『おいっ、道の真ん中で考え事するな。あっ、危ない。車が！！』
- 『ドンッ！！』
- 女生徒 A 『キャー！事故みたいよ』
 女生徒 B 『キャー！男の人が倒れてる』
 女生徒 C 『キャー！血が出てるわ』
 女生徒 D 『キャー！この人生きてるの？キャー！』



五月三日、昨夏から寝たきり状態だった母が亡くなりました。老衰でした。

あと二日で卒寿だったので本人も少し残念だったと思います。

私がまだ小さかったころ、入退院を繰り返していた父に代わり、毎日パートに出かけ、夜はトランジスタラジオに使用する部品の仕分けの内職を行っていたのを昨日のように思い出します。

六十歳を過ぎた母が、いきなり自動車の免許を取ると言い出したのには驚かされました。教習所に通い試験に合格し、すぐさま車を購入して運転をし始めた行動力はさすがです。

地元の家具店で販売のパートを始め、優秀賞をもらっていたのも尊敬できる一面です。

晩年は、地元の方々と国内や海外旅行を満喫して楽しんでいましたが、その友人も一人二人と亡くなられ、家に閉じこもる日が続き老化が早まっていったように感じます。

省みると、大したことは何もしてあげられず、決して親孝行ではありませんでした。

今はあの世で二十七年ぶりに再開した父と、二人でゆっくりとお過ごしください。

お疲れさまでした。

不出来な息子より 母へ

団体
企業
応援

TOHO
HOLDINGS



徳丸村中眼科

加盟団体

RID2770 川口モーニングロータリークラブ

NPO法人 さいたま起業家協議会

公益社団法人 千葉東法人会

公益財団法人 モラロジー道德教育財団

<https://kawaguchi-morning.jp/>

<https://saitama-kk.org/>

<https://www.chibahojin.jp/>

<https://www.moralogy.jp>

事業所

商号 株式会社ケイプロ

屋号 都市防犯プランニング社

本社 埼玉県蕨市中央1-7-1シティタワー蕨

千葉支店 千葉県千葉市中央区新町1-20江澤ビル

<https://k-puro.co.jp/>

mail info@k-puro.co.jp

TEL 048-446-9445

TEL 043-243-6110

業務内容

機械警備事業 弊社のセキュリティプランにセコム・ALSOK の大手警備会社のインフラを使用

防犯カメラ事業 周辺環境・建物構造・人的要因等を加味し用途に沿ったカメラ選別と適位置へ設置

損害保険事業 セコム損害保険の代理店としてお客様に最適なプランをご提案